

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
現代文化学部※1	文化コミュニケーション学科	/	1	6	6	13	13	/
生活科学部	栄養科学科	/		2	10	13	13	/
文化言語学部※2	文化言語学科	/	0	8	5	13	13	/
(備考) ※1 現代文化学部は平成30年度から学生募集開始。現在1年次及び2年次が在籍している。完成年度を迎えておらず、3年次及び4年次のシラバスは未作成であり、公表しない。 ※2 文化言語学部は平成30年度以降募集停止。現在3年次及び4年次が在籍している(2年次に1名休学中の者が在籍)。学年進行により、1年次及び2年次のシラバスは作成せず、公表しない。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学Webサイトにおいて公表。 (URL: https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/) https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp/ (シラバスについてはゲストユーザーからログインし、実務経験のある教員一覧を参照の上検索)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学 Web サイトにおいて公表。
<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/outline/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	2018.4.1 ~ 2022.3.31	法人業務の総理
非常勤	現職：株式会社役員	2019.7.12 ~ 2023.7.11	経営者として広く社会的 知見を活かした経営計画 策定への参画、組織運営体 制へのチェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>■尚綱大学・尚綱大学短期大学部授業計画作成ガイドライン (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/)</p> <p>■各学部の授業科目一覧 (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/)</p> <p>■各学部の授業科目のシラバス一覧 尚綱大学・尚綱大学短期大学部教務システム URL : https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp/ (ゲストユーザーからログインし検索)</p> <p>■授業履修の手引き COMPASS (初年次教育テキスト) (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/)</p> <p>■概要 授業計画書(シラバス)は、例年 11 月頃に全学的な機関である教務連絡協議会において、次年度のシラバスの作成・点検期間を決定している。12 月に授業担当教員を対象にシラバスの作成・注意点等について説明会を実施し、翌年 1 月下旬まで授業担当教員によるシラバス初校データ作成の後、シラバス点検委員の点検を受け、4 月 1 日に公表している。</p> <p>授業概要(シラバス)は、教務システム(ユニバーサルパスポート)において、各自学生が履修登録をする上で必要な事項、成績評価方法、準備学習、実務経験のある教員などを記載している。また、学習への意欲を試験やレポート等で把握し、学修成果の厳格かつ適正な評価、単位授与を与えることとしている。具体的には、シラバスには成績評価の割合を記載するよう行っている。(例: 定期試験 50%、レポート提出 30%、学習意欲 20%) なお、実務教員による授業科目については、上記の本学教務システムにおいて、実務経験のある教員一覧を参照の上検索できる。 これら授業作成ガイドラインを web 上にて公表し、教務システムを通してシラバスを公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学 Web サイトにおいて公表。 https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp/ (ゲストユーザーからログインし、シラバスを検索してください。)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>■概要</p> <p>尚綱大学学則第 13 条第 1 項に定められた単位の計算方法により各授業科目の単位数を決定し、且つ尚綱大学学則第 24 条及び第 28 条に基づき、単位・卒業の認定を行う。本学では単位の認定を行うにあたり、各教員に対してその授業を学ぶ「意味・意義」を意識させたシラバスの作成を求め、またその授業科目がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とどのように関与しているかを明示するよう求める。</p> <p>具体的には「授業概要」「キーワード」「課題と評価の方法」「事前・事後学修の内容と目安」など記載し、入学した学部・学科の教育課程の授業を履修し、各授業科目に定めている「到達目標」を達成し、学力試験及び受講状況その他により認定の上、合格した者に単位を認定するものとする。</p> <p>最終的に本学に 4 年以上在学し、所定の授業を履修した上で、124 単位以上の単位を修得した者について学年又は学期の終わりに教授会の議を経て、学長が卒業を認定とする。</p>	
(根拠学則)	
尚綱大学学則第 13 条第 1 項、尚綱大学学則第 24 条、尚綱大学学則第 28 条	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>■G P A の算定について</p> <p>尚綱大学におけるグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に関する規程 (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/)</p>	
<p>■G P A の種類及び算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G P A は、学期G P A、通算G P A に区分する。 ・G P A は以下の式により計算するものとし、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位を表示させるものとする。 ・総履修登録単位数は、G P A 算出対象の授業科目の合計履修登録単位数とする。 	
<p>G P A =</p> $\frac{(\text{秀}4 \times \text{修得単位数}) + (\text{優}3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良}2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可}1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$	
<p>■概要</p> <p>本学では学生の成績を客観的な指標として、G P A (グレード・ポイント・アベレージ) を採用している。その上で、学生の相対的な成績状況を把握している。また、学生の成績を各学科の専任教員等に情報を共有し、履修指導や各種奨学金等に関することなど、学生指導への活用などを行っている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/</p>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

■大学のディプロマ・ポリシー

尚絅大学ディプロマ・ポリシー

https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01

■概要

各学部ディプロマ・ポリシーにより、学位授与方針を定めており、4年間に於いてそれらの資質・能力を満たすために、カリキュラムの中にある授業科目を履修することで、学位が授与される。また、具体的に卒業する為の条件として、尚絅大学学則において卒業認定に関する事項が記載されているが、具体的な卒業要件に必要な最低単位数や卒業条件等は、各学部の履修規程において卒業要件（卒業資格）が記載されている。

各学部の卒業要件（卒業資格）に達した人は、学年又は学期の終わりに、教授会の議を経て、学長が卒業を認定ことになっており、その卒業認定の結果については、学内の掲示板への掲示等により学生に通知することになっている。

参考：

尚絅大学（学則）第28条

尚絅大学生活科学部履修規程第4条

尚絅大学現代文化言語学部履修規程第8条

尚絅大学文化言語学部履修規程第6条

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学 Web サイトにおいて公表。

https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/H30.pdf
収支計算書又は損益計算書	本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/H30.pdf
財産目録	本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/H30.pdf
事業報告書	本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/H30.pdf
監事による監査報告(書)	本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/H30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人尚綱学園事業計画書対象年度:2019)
公表方法:本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/2019_jigyokeikaku.pdf
中長期計画(名称:尚綱学園の長期ビジョンと中長期行動計画対象年度:2013~2022)
公表方法:本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/vision.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/univ/outline/h30_univ.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/univ/outline/jihee/29jihee.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代文化学部文化コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline ）
（概要）現代文化学部は、高度なコミュニケーション能力を基礎に、高度情報化とグローバル化が進行する現代日本社会及び多様な表現文化について、広い視野から調査・分析する能力を修得し、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる女性を育成することを目的とする。 （尚綱大学学則第 4 条第 1 項）
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01 ）
（概要）現代文化学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。 (1)日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。 (2)伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。 (3)高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。 (4)上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/curriculum_policy?id=ad01 ）
（概要） 現代文化学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、 以下のような方針でカリキュラムを編成します。 (1)大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力をつけるための科目を配置します。 (2)幅広く教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置し、高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目を専門導入科目から段階的、系統的に展開します。 (3)日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力の修得のために、教養教育科目で日本語運用能力養成領域および多文化コミュニケーション領域と、専門教育科目で実践外国語科目を配置します。 (4)日本および東アジアの社会と文化に関する諸問題を様々な角度から調査・分析する能力を修得するために、教養教育科目に調査分析基礎領域、専門教育科目に「文芸文化」、「情報メディア文化」、「日本・東アジア社会文化」、「観光文化」の 4 領域を配置し、4 領域から 2 つを学ぶ構成とします。 (5)ビジネスや行政の場で協働して問題が解決できる能力を育成するために、専門教育科目で共通実践科目を配置します。 (6)文化を様々な角度から分析する視座を確立する領域として、文芸文化領域、日本・東アジア社会文化領域、観光文化領域、そして情報メディアおよび現代的なサブカルチャーに関する分析能力を育成する情報メディア文化領域の 4 つの領域を置きます。 (7)文化理解の視座を確立することを目的とする 4 領域に関しては、卒業後の進路に応じて、2 つの領域を組み合わせた形で学修を提供すべくデザインします。 (8)卒業研究に関しては、各領域から 1 名ずつの指導教員を配置し、多面的な見方から文化を分析する能力を育成します。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/admission_policy?id=ad01）</p> <p>（概要） 尚綱大学は、尚綱学園の建学の精神・教育理念及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。 現代文化学部は、高度な日本語運用能力、多様な文化と社会に関する知識を身に付けた上で、高度情報化とグローバル化が進行する日本社会に貢献できる人材を育成することを目指し、次のような学生を求めています。</p> <p>(1)日本の表現文化に興味がある人 (2)現代的な情報技術に基づいたメディアコミュニケーションに興味がある人 (3)国際交流や、国内外の様々な地域文化に関心がある人 (4)観光を通じて、地域社会や地域文化の発展に貢献したい人</p> <p>入学を希望する人には、高等学校等において、国語・英語を中心とした基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を習得し、高等学校等における活動などを通じて主体的かつ協働して物事に取り組む力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、演習等において、問題解決力及びアクティブ・ラーニングにおいて様々な課題を教員・他の学生と協働して探求・解決する力を本格的に育成するために必要となります。入学者の選抜方法として、一般入試、大学入試センター試験利用入試、推薦入試、自己推薦入試、AO入試、編入学試験、社会人入試及び外国人留学生入試を採用し、上記のような能力や資質を多面的・総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、国語や英語の筆記試験において基礎学力・技能や思考力・判断力・表現力、面接において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。 ・大学入試センター試験利用入試では、国語や外国語において基礎学力・技能や思考力・判断力を総合的に評価し選抜します。 ・推薦入試では、小論文において思考力・判断力・表現力、調査書や面接において基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。 ・自己推薦入試では、自己推薦書において基礎学力・思考力・判断力・表現力・技能、調査書や面接において基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。 ・AO入試では、授業体験において思考力・判断力・表現力、面談とエントリーシートにおいて基礎学力・技能と共に主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。 ・編入学試験では、小論文において基礎学力と、思考力・判断力・表現力、面接において多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。 ・社会人入試では、2年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文において思考力・判断力・表現力、面接において、基礎学力と共に社会人としての経験と実績に基づき主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ能力を総合的に評価し選抜します。 ・外国人留学生入試では、作文において基礎的な日本語の文章能力、面接において日本語の会話能力、日本で学習する意欲などを総合的に評価します。
<p>学部等名 生活科学部栄養科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline）</p> <p>（概要）生活科学部は、人間の健康と食のあり方を広い視野から深く教育研究することにより、食・栄養に関する先進的な専門知識と実践技術を身につけ、自律性・対話力・考察力を兼ね備えた専門職業人として、栄養教育、栄養管理、食育等を通して、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。（尚綱大学学則第4条第2項）</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad02）</p>

<p>(概要)</p> <p>生活科学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、「学士(栄養学)」の学位を授与します。</p> <p>(1)幅広い社会的関心と教養を有するとともに、栄養・食品・医療・教育等に関する先進的な専門的知識を修得している。</p> <p>(2)食に関する知識を基盤とした実践的スキルを有するとともに、科学的に情報を分析・活用できる能力と、専門的知識や豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション力を身につけている。</p> <p>(3)専門職としての役割を理解し、社会的責任感と倫理観を備え、自主的自律的に研鑽に努めつつ社会に貢献しようとする態度を備えている。</p> <p>(4)積み上げてきた体系的知識・技能及び最新の知見を総合的に捉え、保健・医療・福祉・教育・行政等の専門分野の課題に対して的確な考察・判断を行う能力をもち、専門職業人として他職種との連携のもと、実践に移す能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/curriculum_policy?id=ad02）</p>
<p>(概要)</p> <p>生活科学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。</p> <p>(1)大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけるための科目を配置します。</p> <p>(2)幅広く深い教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置します。</p> <p>(3)管理栄養士に必要な高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目（専門基礎分野及び専門分野）を段階的、系統的に展開します。また、適切な態度・倫理観、さらにそれらを背景としたコミュニケーション力を育成するために、実験・実習・演習を体系的に配置します。</p> <p>(4)栄養士・管理栄養士としての創造的思考力・判断力、社会性、協調性を育成するために、専門的知識と技能の統合的・実践的学修の場として、「管理栄養士総合演習」「臨地実習」「卒業研究」を配置します。</p> <p>(5)栄養教諭（一種）が備えるべき教育学的見識と十分な指導・教育力を育成するために、教養教育および専門教育と連動するかたちで、教育職員免許状取得を目指す教職課程を配置します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/admission_policy?id=ad02）</p>
<p>尚絅大学は、尚絅学園の建学の精神・教育理念及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。</p> <p>生活科学部は、健康の保持・増進や疾病の予防・治療を目的にした栄養指導、医療・福祉・教育分野での栄養管理、食育、食品の研究・開発などに強い関心を持ち、食・栄養の専門家としての高度な知識・技能の修得と、管理栄養士の国家資格取得を目指して努力し、優れた見識・国際感覚・豊かな人間性を身につけたいという意欲が強い学生を求めます。</p> <p>具体的には、次のような意欲にあふれた人を求めます。</p> <p>(1)管理栄養士養成カリキュラムの履修に必要な基礎学力を持ち、主体的に勉学を遂行できる人</p> <p>(2)管理栄養士として社会に貢献しようと考えている人</p> <p>(3)食と健康に関する現代的テーマに、強い探究心をもって取り組もうと考えている人</p> <p>(4)生物学・化学などの生命科学に興味があり、専門的な真理を探究する意欲を持つ人</p> <p>(5)他の専門職との連携やチームワークに必要な協調性を持つ人</p> <p>入学を希望する人には、高等学校等において、生物、化学、物理、数学など、生命科学を学ぶための基礎知識や思考力・判断力を習得し、主体的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うために国語や英語の基礎学力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、実験・実習・演習等において、他の学生と協働して様々な課題</p>

<p>を探究・解決する能力を育成するために必要となります。</p> <p>入学者の選抜方法として、一般入試、大学入試センター試験利用入試、推薦入試、編入学試験及び社会人入試を採用し、上記のような能力や資質を多面的・総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、国語、英語、生物基礎、化学基礎の筆記試験において基礎学力・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価し選抜します。 ・大学入試センター試験利用入試では、国語、外国語、数学、理科において基礎学力・技能、思考力・判断力を総合的に評価し選抜します。 ・推薦入試では、調査書及び口頭試問において一般教養や生物基礎、化学基礎の分野から基礎学力・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価し選抜します。 ・編入学試験では、栄養士養成専門教育に関する分野から、基礎学力・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価し選抜します。 ・社会人入試では、2年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文において思考力・判断力・表現力、口頭試問において、基礎学力・技能と共に社会人としての経験と実績に基づき主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。
<p>学部等名 文化言語学部文化言語学科※平成30年度以降募集停止</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline）</p> <p>（概要）文化言語学部は、現代及び未来を厳しく見据え、文化と言語に力点を置いた教育と研究を展開し、将来の日本社会が必要とする豊かな国際的・文化的感覚を備え、国内外で広く正しく活用し得る言語力を身につけた人材の養成を目的とする。 （尚綱大学学則第4条第1項※平成29年度以前の入学者適用）</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01）</p> <p>（概要） 文化言語学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、コース別に以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。</p> <p>【日本語日本文学コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する幅広い知識を身につけ、多文化共生が進む地域社会に貢献できる。 (2)日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する専門的な学修を踏まえて、課題を発見し、解決できる。 (3)演習や卒業論文執筆を通して、課題解決能力と高度な日本語コミュニケーション力を身につけ、広く社会に貢献できる。 <p>【現代コミュニケーションコース】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)幅広い教養とグローバル社会に対応できる日本・諸外国の社会・文化・歴史等に関する専門的知識を有し、コミュニケーション力と人間力豊かなリーダーシップを発揮して社会に貢献できる。 (2)地域や国際社会の抱える諸問題を発見し、グローバル・グローバル・ローカルな視点で的確に分析して解決する方法を提案し、問題解決に参画できる。 (3)外国語（英語・中国語・韓国語）の高度な運用能力を備え、それぞれの言語圏に関する研究と国際交流を通じて幅広い異文化理解力を身につけ、国際的視野に立って活躍できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/curriculum_policy?id=ad01）</p> <p>（概要） 文化言語学部は、学則に掲げる目的に基づき、文化と言語を重視した教育と研究を行い、現代社会に有為な人材の育成を目指して、教養教育と専門教育の連携及び資格取得の科目を系統的に展開できるように、以下のような方針でカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)教養教育科目は、幅広く深い教養を身につけるために、教養基礎・文化・社会・科学・体育・外国語の6つの科目領域を設け、現代の社会人として求められる多様な基礎知識を修得できるカリキュラムを設定します。また、低年次からキャリアデザイン科目を充実さ

せ、学生一人一人が、女性として自らの夢を実現する力を身につけられるようサポートします。

(2)教養教育科目は、主に1、2年次に履修し、より高度な教育内容（教養教育科目、専門教育科目）を段階的に学修できるように設定します。教養科目でも1年次からゼミナール形式の教育を行うことで、大学生としての基礎力やコミュニケーション力を培うとともに、専門教育の学修に必要なアカデミックスキルの修得を目指します。

(3)専門教育科目は、日本語日本文学、現代コミュニケーションの各コースで専門分野について体系的に深く学べるように科目を編成します。各コースの特性や学修目標に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の区別を設け、専門学修の成果として、全員が卒業研究に取り組むことができるように設定します。

(4)専門での学修に加え、教職課程（中学国語・高校国語・高校書道）、司書課程（司書・司書教諭）、日本語教員養成講座を設け、また、秘書士・上級秘書士・情報処理士の資格が取得できる科目を設定し、社会の即戦力となるための力を養います。コース別に以下のようなカリキュラムを編成します。

【日本語日本文学コース】

(1)専門の日本語学、日本語文学、漢文学だけでなく、書道をはじめとする日本の伝統・文化を理解する力を身につける科目や、学際的で幅広い視野をもって履修できる科目を設定します。

(2)日本語学、日本語文学、漢文学、日本語教育について概論や文学史のような基礎的科目を踏まえたうえで、専門的な科目（講義・講読・演習）への履修を配置します。

(3)各講義・演習等を踏まえたうえで、深く学修する分野を選択して「卒業論文」の作成に至る構成となっています。卒業論文指導も毎週の指導に加え、中間発表会（複数回）、卒業論文要旨発表会を行い、後輩にも参考になるような指導を行います。

(4)学科の専門教育と連動する形で、教員免許状（中学国語、高校国語、高校書道）を取得する教職課程や、日本語教員養成講座のほか、図書館司書、司書教諭、秘書士、情報処理士といった資格取得のための科目群を設置します。

【現代コミュニケーションコース】

(1)実践的なコミュニケーション力を身につけるために、4つの領域「社会理解」「サービスマーケティング」「情報・ビジネス」「日本語・外国語」に重点を置きます。

(2)現代の社会や異文化について理解し専門的知識を習得するために「社会理解」領域の科目を配置するとともに、「サービスマーケティング」領域の科目で体験型授業を採り入れ、社会における課題を自ら発見し解決に取り組む能力を段階的に培います。

(3)「情報・ビジネス」領域の科目では、現代社会に対応できるスキルや専門的知識を修得するばかりでなく、ビジネス実務士や上級秘書士、上級情報処理士などの資格取得に繋がります。

(4)社会で求められている日本語表現力を高めるとともに、外国語（英語・中国語・韓国語）の基礎を固め、さらに高度な実践的運用力を修得することを到達目標とし、「日本語・外国語」領域で科目を体系的に配置します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。

https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/admission_policy?id=ad01)

（概要）

文化言語学部は、文化、言語、コミュニケーションについて理解を深め、それらを活用し地域社会や国際社会で活躍したい学生を求めます。具体的には、コース別に次のような人を求めます。

【日本語日本文学コース】

(1)日本文学、日本語・日本語教育、書道文化に興味のある人

(2)本コースで学んだ日本文学、日本語・日本語教育、書道文化に関する専門知識を活かし、国語・書道教員、司書、企業人といった形で社会に貢献したい人

(3)日本の伝統文化や現代文化に興味があり、これらを学ぶことで、国際的な相互理解に貢献できる人

【現代コミュニケーションコース】

(1)社会に求められている実践的なコミュニケーション力を身につけたい人
 (2)英語・中国語・韓国語を基礎から実践的なレベルまで学び、国際社会で活躍したい人
 (3)熊本について学び、地域に貢献したい人
 (4)ビジネス社会で活躍したい人
 入学を希望する人には、文化や言葉について深く学ぶために、高等学校等においては、国語、英語、社会などの基礎学力を習得していることを望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。
 (URL : <https://www.shokei-gakuen.ac.jp/outline/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
現代文化学部	—	4人	4人	1人	1人	0人	10人
生活科学部	—	6人	5人	2人	2人	6人	(教員)15人 (助手含む) 21人
文化言語学部	—	4人	4人	1人	0人	0人	9人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	58人	58人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等） 公表方法：本学 Web サイトにおいて公表。
<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/teacher>

c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）
 本学 Web サイトにおいて公表。
<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/fd>

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代文化学部	75人	38人	50.7%	150人	75人	50.0%	若干名	0人
生活科学部	70人	84人	120.0%	300人	326人	108.7%	10人	7人
文化言語学部	※平成30年度以降募集停止			150人	89人	59.3%	若干名	0人
合計	145人	122人	84.1%	600人	490人	81.7%	10人	7人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代文化学部 ※完成年度を迎えておらず、卒業生無し。	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
生活科学部	80 人 (100%)	2 人 (2.5%)	75 人 (93.8%)	3 人 (3.8%)
文化言語学部	42 人 (100%)	1 人 (2.4%)	36 人 (85.7%)	5 人 (11.9%)
合計	122 人 (100%)	3 人 (2.5%)	111 人 (91.0%)	8 人 (6.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) ※現代文化学部は完成年度を迎えていないため、文化言語学部の主な就職先を掲載。なお、文化言語学部は平成 30 年 4 月に募集停止。				
<p><進学先> 台湾師範大学国語教学センター、弘益大学語学堂、東海大学農学研究科農学専攻生命科学コース、徳島大学大学院栄養生命科学部教育部</p> <p><就職先> 株式会社オカザキ/株式会社西川印刷/株式会社旭製作所/株式会社地域経済センター (くまもと経済)/株式会社DK/日本郵便株式会社/九州産業交通ホールディングス株式会社/ 株式会社共同/有限会社Coo&RIKU (クー&リク)/株式会社ハイコム/株式会社ジュン/株式会社メガネの大宝堂/株式会社コスモス薬品/株式会社えがおホールディングス/株式会社えがお/熊本トヨペット株式会社/株式会社イズミ/トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社/熊本三菱自動車販売株式会社/ 株式会社One Flower/株式会社ホンダカーズ熊本/株式会社フンドーダイ五葉/株式会社通信館/株式会社ドラッグストアモリ/株式会社ゾフ/株式会社レリアン/エスエス産業株式会社/株式会社熊本銀行/熊本地所株式会社/株式会社セイカホーム/ニッポンレンタカー九州株式会社/有限会社広東/旅館みな和/株式会社ジョイフル/株式会社オーイズミダイニング/老舗甘味処天のや本店/株式会社KT21/ 学校法人尚絅学園/幼保連携型認定こども園城山幼稚園/学校法人グリーンコープ古町幼稚園/熊本大学教育学部附属小学校/五福公民館図書室/社会福祉法人河童福祉会幼保連携型認定こども園かっぱこどもえん/社会福祉法人佐土原福祉会認定こども園エンゼル保育園/幼保連携型認定こども園ふわわ/学校法人みゆき学園幼保連携型認定こども園恵水幼稚園/熊本県教育委員会学校人事課天草教育事務所/熊本県教育委員会/社会福祉法人さがみ愛育会愛の園ふちのべこども園/有限会社M・G・S空とぶくじら幼児園宇美園/南筑後教育委員会/まつばせレディースクリニック/社会福祉法人白川園若草児童学園/社会福祉法人田島会田島保育園/社会福祉法人木葉昭和児童園/地方独立行政法人くまもと県北病院機構/医療法人財団聖十字会聖ヶ塔病院/特定医療法人富尾会桜が丘病院/有限会社IQキッズ/医療法人社団岡山会九州記念病院/株式会社保健支援センター/医療法人熊愛会熊本脳神経外科病院/特定医療法人成仁会くまもと成仁病院/社会福祉法人日向福祉会ひむき保育園/医療法人社団ピネル会ピネル記念病院/株式会社くまもと健康支援研究所/医療法人博光会御幸病院/医療法人小林会小林病院/社会福祉法人慶信会第二城南学園/医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院 (旧城南病院) /社会福祉法人木葉昭和児童園田原児童園/ひらやまクリニック/社会福祉法人龍田福祉会たつだ保育園/社会福祉法人リデルライトホーム/社会福祉法人福音福祉会ひかりの子保育園/医療法人春水会山鹿中央病院/医療法人社団成仁成仁病院/医療法人社団日晴会久恒病院/株式会社LEOC/株式会社トライアンプ (熊本BPOセンター) /株式会社ABCCookingStudio/安田建物管理株式会社/株式会社グリーンハウス/日清医療食品株式会社南九州支店/株式会社パブリックビジネスジャパン/三菱電機ライフサービス株式会社/日清医療食品株式会社福岡支店/菊陽町役場/玉名市役所/御船町役場</p>				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代文化学部	40 人	人	2 人	5 人	人
生活科学部	80 人	71 人	2 人	8 人	人
文化言語学部	人	40 人	6 人	0 人	人
合計	120 人	111 人	10 人	13 人	人
（備考）入学者数（平成 30 年 5 月 1 日現在）を除き、平成 30 年度実績					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）尚綱大学授業計画作成手引き (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure)</p> <p>各学部の授業科目のシラバス一覧 https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp/（ゲストユーザーからログイン）</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要） 尚綱大学学則第 13 条第 1 項に定められた単位の計算方法により各授業科目の単位数を決定し、且つ尚綱大学学則第 24 条及び第 28 条に基づき、単位・卒業の認定を行う。 本学では単位の認定を行うにあたり、各教員に対してその授業を学ぶ「意味・意義」を意識させたシラバスの作成を求め、またその授業科目がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とどのように関与しているかを明示するよう求める。 具体的には「授業概要」「キーワード」「課題と評価の方法」「事前・事後学修の内容と目安」など記載し、入学した学部・学科の教育課程の授業を履修し、各授業科目に定めている「到達目標」を達成し、学力試験及び受講状況その他により認定の上、合格した者に単位を認定するものとする。 最終的に本学に 4 年以上在学し、所定の授業を履修した上で、124 単位以上の単位を修得した者について学年又は学期の終わりに教授会の議を経て、学長が卒業を認定とする。 （根拠学則） 尚綱大学学則第 13 条第 1 項、尚綱大学学則第 24 条、尚綱大学学則第 28 条</p> <p>『GPA の算定について』 尚綱大学におけるグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度に関する規程 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure</p> <p>尚綱大学ディプロマ・ポリシー https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 （任意記載事項）	履修単位の登録上限 （任意記載事項）
現代文化学部	文化言語学科	124 単位	Ⓞ・無	45 単位
生活科学部	栄養科学科	124 単位	Ⓞ・無	49 単位

文化言語学部	文化言語学科	124 単位	㊦・無	45 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

㊦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法 : 本学 Web サイトにおいて公表。 (九品寺キャンパス) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/kuhonji/ (武蔵ヶ丘キャンパス) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/musashi/</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
現代文化学部	文化コミュニケーション 学科	670,000 円	220,000 円	220,000 円	
生活科学部	栄養科学科	750,000 円	220,000 円	270,000 円	
文化言語学部	文化言語学科	620,000 円	※平成 30 年度以 降募集停止	220,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学修支援センター (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/gakusyu/) 平成 29 年 4 月に学修支援センターを設置し、授業についていけない、学修の方法が分からない、レポートの書き方が分からない、就職試験の一般教養に自信がない、編入学のための準備の仕方が分からない等々の悩みや不安に寄り添い、日々の学修活動がスムーズにいくように支援している。</p> <p>具体的には、高校までの学習内容の復習や授業内容の補習の他、個別の学習・履修相談、資格取得等の幅広い相談にも応え、平成 30 年度は九品寺及び武蔵ヶ丘両キャンパスで数学、英語のサポート教科を開講している。また、九品寺キャンパスにおいては管理栄養士の国家試験合格が求められる生活科学部の学生を中心に生物・化学のサポート教科を開講している。武蔵ヶ丘キャンパスにおいては、中国語・韓国語のサポート教科を開講し、語学学修のサポートから留学のための支援も併せて行っている。</p> <p>このほか、学修相談、履修相談を両キャンパス教務課で行い、スムーズな履修登録が行えるよう指導している。</p> <p>学修環境について、九品寺キャンパスでは大学図書館にグループ学習室、武蔵ヶ丘キャンパスでは大学棟に学習室を設け、サポートを行う教科を開講し、学生の自習室等に利用できるよう整備されている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 就職・進路支援センター (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/career/) 学生の多様なニーズに対応し、平成 29 年 4 月に就職・進路支援センターを設置した。就職・進路支援センターでは、学生の多様なニーズに対応し、希望の就職・進路の実現をサポートしており、①個別支援(履歴書・エントリーシート対策、キャリアカウンセリング、模擬面接)②就職支援・資格取得支援(就職対策講座、簿記検定対策講座)③就職支援プログラム(インターンシップ、企業経営者による講演、合同会社説明会)④キャリアガイダンス(集団模擬面接、グループディスカッション、メイク・マナー講座、社会人への準備支援セミナー)など希望の進路・就職が実現できるようバックアップの体制を整えている。学生の希望をしっかりと聞き取り、将来のビジョンを共に考えるなど、本人に寄り添いながら最適な就職・進路の選択や決定ができるよう人生設計を踏まえた支援を行い、夢や希望を実現させるための充実した就職支援体制を整えている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 九品寺キャンパス及び武蔵ヶ丘キャンパスに学生支援課を置き、学生生活に関すること全般にわたり支援を行っている。特に学生の心身の健康等に係る支援に関する取組みについては、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各キャンパスにおいて年 1 回(4 月)に健康診断を実施し、学生の健康状態を把握する。 ・各キャンパスにおいて、保健室(養護教諭を置く)を設置し、学生の心身の相談、緊急時の対応を行う。 ・各キャンパスにおいて、カウンセラー室を設置し、週 1 回のカウンセラーによる相談を受け

付ける。

これらについては、学生の健康状態、心身の相談状況等を学生支援課、保健室、カウンセラーで情報を共有し、学生の状況について改善を図るよう努めている。

このほか、「学生支援講座」を開講し、全学生に対し「薬物乱用防止」、「こころの健康」、「女性の健康」を受講させ、心身の健康に係る支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：教育研究活動等の状況について、本学のウェブサイトにおいて必要な情報を公表している。<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/>